

大学コンソーシアム京都単位互換事業における eラーニング授業2年目の取り組み

Overview of Interuniversity e-Learning Credit Transfer Systems in the Consortium of Universities in Kyoto (2nd year Status)

阿部 一晴

Issei ABE

京都光華女子大学 情報教育センター

Email: i_abe@koka.ac.jp

あらまし：文科省平成20年度戦略的大学連携支援事業の選定を受けた、京都産業大学を代表校とする京都地区10大学・短期大学と京都市、大学コンソーシアム京都の連携による「戦略的eラーニングシステム開発推進事業」で構築したシステムは「e京都ラーニング」という名称で大学コンソーシアム京都教育事業部の単位互換事業に引き継がれた。受講対象も当初の10大学・短期大学から単位互換包括契約を結ぶ51大学・短期大学に拡大した。本稿では、大学コンソーシアム京都の単位互換制度に正式に組み入れられて2年目となる平成24年度のeラーニングによる大学間単位互換授業提供状況、受講実績等について報告する。

キーワード：eラーニング、コンソーシアム、大学間連携、単位互換授業

1. はじめに

大学コンソーシアム京都は、平成10年3月に文部大臣（当時）より財団法人（平成22年より公益財団法人）としての設立認可を受けた。法人格を持つ大学コンソーシアムとして、全国最大規模の事業を展開している。その中核事業の一つに単位互換事業が挙げられる。毎年加盟大学の多くの学生が他大学開講科目を相互に受講している。それ以外にも加盟大学が連携、協力し様々な教育に関する新しい取り組みも試みている。

平成20年度～22年度に文科省 戦略的大学連携支援事業の選定を受け、加盟大学のうち7法人10大学・短期大学と京都市、大学コンソーシアム京都の共同事業として、教養教育の共有共用化を目的とした連携eラーニングシステムと制度の構築をおこなった。この共同事業では、「e(いー)京都(こと)ラーニング」という名称のシステムを立ち上げ、平成22年度に遠隔講義による同期型授業とVODによる非同期型授業を試行提供し、連携校学生に限定した単位互換による受講を開始した。文科省補助事業終了後の平成23年度から、この連携事業で構築したシステムおよび授業コンテンツ等は、大学コンソーシアム京都教育事業部の通常の単位互換事業に引き継がれ、受講対象も単位互換制度参加の51大学・短期大学に拡大した。開講科目数は若干減少したものの、通常の単位互換事業に組み入れられて2年目となる平成24年度も引き続き単位互換制度の一環として、eラーニング科目（非同期型VOD授業と教室での集合授業・VODを組み合わせたブレンディッド型授業）の提供をおこなった。受講者数も大幅に拡大しており、もはやeラーニングによる単位互換授業が特殊な授業形態ではなく、加盟大学の学生に広く受け入れられる存在となったと考えられる。

2. 大学コンソーシアム京都について

大学コンソーシアム京都は、日本有数の大学都市とも言える京都市が、平成5年に策定した「大学のまち・京都21プラン」をベースとし、平成6年に発足した「京都・大学センター」をその前身としている。同年には、15大学・13短期大学での単位互換事業を開始した。平成10年に名称を現在の「大学コンソーシアム京都」に変更すると同時に、財団法人設立の許可を受けた。事業内容としては、単位互換、生涯教育、インターンシップをはじめとした教育事業の他に高大連携事業、リエゾン・共同研究事業、高等教育研究推進事業、学生交流事業と多岐に渡っている。加盟団体は京都地域の全ての国公私立50大学・短期大学（学生総数約17万名）と京都市及び京都地区経済団体（京都商工会議所、社団法人京都経済同友会）である。

3. 単位互換事業

大学コンソーシアム京都が実施している単位互換事業は、他大学が開講する科目を履修し、修得した単位が所属大学の単位として認定される制度である。学生の幅広い関心や興味に応じて、文化、芸術、政治、経済、自然科学など、さまざまな学問分野にわたる科目を10テーマに分類し提供している。

この単位互換事業には、51大学・短期大学（全加盟大学のうち2校が不参加、加盟大学以外で3校が単位互換制度のみに参加しているためコンソーシアム加盟大学とは構成が若干異なっている）が単位互換包括協定を締結し、毎年約550科目を提供している。受講者数も、毎年約7,000名（社会人の生涯学習である「京（みやこ）カレッジ」生を含む）を超える規模となっている。

ここ数年の推移（京カレッジを除く単位互換生の

み) を見てみると、平成 22 年度は 45 大学・短期大学から 6,464 名が出願し 5,932 名が受講、平成 23 年度は 45 大学・短期大学から 6,030 名が出願し 5,643 名が受講した。平成 24 年度は 45 大学・短期大学から 547 科目の単位互換授業を提供し、41 大学・短期大学から 6,050 名が出願、5,602 名が受講した。全体の受講者数はここ数年微減しているが、それでも年間のべ 5,500 名超の受講者規模を維持している。提供科目数、受講者数ともに、大学間の単位互換制度としては日本最大である。

前述した戦略的学連携支援事業では、e ラーニング科目の受講登録システムを Web アプリケーションとして開発し、実装した。平成 23 年度からは e ラーニング科目だけではなく、大学コンソーシアム京都が提供するすべての単位互換授業の出願に本システムを利用している。これにより、従来各大学の教務部門窓口において紙ベースでおこなっていた(例年単位互換授業の受講者が多い一部大学は別途専用の電子出願システムを使用していた)出願処理が Web でおこなえる様になり、作業の省力化と出願に係る事務処理時間を大幅に短縮することができた。

4. これまでの e ラーニング授業提供状況

平成 22 年度前期に非同期型 VOD 授業 7 科目、同期型遠隔講義授業 3 科目を提供し、それぞれ 114 名、16 名が受講した。また、後期にも非同期型 VOD 授業 3 科目、同期型遠隔講義授業 2 科目を提供し、それぞれ 51 名、8 名の受講があった。学生向けの単位互換授業とは別に、大学職員研修として 10 コースの VOD 授業も提供し、のべ 134 名の受講があった。

単位互換授業については、前期 VOD 授業の単位修得率(受講者数に対する当該科目の修了者数の比率)が 71.9%、遠隔講義授業が 62.5%であった。同様に後期 VOD 授業は 74.5%、遠隔講義授業は 62.5%となり、全体として受講生の 71.4%が単位修得したという結果となっている。全般的に VOD 授業の方が、遠隔講義授業よりも単位修得率が高いという結果となった。VOD 授業の方は、受講生の都合に合わせて各自のペースで授業や課題に取り組むことができるという e ラーニングのメリットが受け入れられたという結果とも考えられる。(遠隔講義授業は、毎週決まった時間に決まった教室で受講するというところが、従来の教室での集合授業と差異が無い)

補助事業終了後の初年度にあたる平成 23 年度前期は、非同期型 VOD 授業 7 科目、同期型遠隔講義授業 1 科目、ブレンディッド型授業(教室での集合授業と VOD を組み合わせたもの) 1 科目を提供し、それぞれ 356 名、4 名、59 名が受講した。また、後期にも非同期型 VOD 授業のみ 6 科目を提供し、201 名の受講があった。提供科目数は連携事業時の年間 15 科目と同数であったが、受講者数は対象を、単位互換包括契約を結ぶ 51 大学・短期大学全体に拡大したこともあって、のべ 189 名から 601 名へと大幅に増加した。

5. 平成 24 年度(2 年目)の取り組み

e ラーニング授業が通常の単位互換事業に正式に組み込まれて 2 年目となる平成 24 年度も、6 大学・2 短期大学(すべて当初の「戦略的 e ラーニングシステム開発推進事業」参加校)から、前期に非同期型 VOD 授業 6 科目、ブレンディッド型授業 2 科目、後期に非同期型 VOD 授業 5 科目、通年の非同期型 VOD 授業 1 科目の合計 14 科目を提供した。(図 1)

カテゴリ	科目数 (コース数)	受講者数	備考
VOD科目	12	696	6大学・1短期大学提供
遠隔科目			
ブレンディッド科目	2	81	2短期大学提供
eラーニング科目合計	14	777	

図 1: 平成 24 年度 e ラーニング単位互換提供科目

前年度までであった同期型遠隔講義授業の提供はなくなった。このため科目数は 1 つ減ったが、受講者数はのべ 777 名と、前年度から更に拡大した。

6. まとめ

年間の受講者 5,500 名を超す大学コンソーシアム京都の単位互換制度に、e ラーニング授業が正式に組み込まれて 2 年が経過した。科目提供する教員はほぼ固定化しており科目数は増えていないが、受講者数は確実に拡大し、単位互換受講生全体の 1 割を超えた。e ラーニング授業は学生たちに自然に受け入れられるようになったと感じる。受講生からは、「時間割の決まっている授業とは異なり自分のペースで学べる」、「他大学キャンパスまで出かけることなく幅広い科目が受講できる」等、e ラーニングの特性を肯定的に受け止めるコメントが寄せられている。受講生の期待に更に応えていくためには、より幅広い分野の科目提供と、科目数拡大が求められる。

一方、受講生を連携 10 大学に限定していた平成 22 年度に 71.4%であった単位修得率が、平成 24 年度には 56.0%(受講生のべ 777 名中 435 名が科目修了)と大幅に下がったことが分かった。受講者数が大幅に拡大したため、単位修得率の低下は、経験的にはある程度納得できる結果ではあるが、単位互換授業全体の単位修得率 61.4%(5,602 名中 3,440 名が科目修了)も下回っている。この点は e ラーニングの特性に関する実感とずれていると感じる。今後、この要因等について詳細に分析していきたいと考えている。

参考文献

- (1) 阿部一晴, 辻健司: “大学コンソーシアム京都における e-learning 単位互換授業の取り組み”, 教育システム情報学会, 第 37 回全国大会講演論文集, pp.66-67, (2012)
- (2) 阿部一晴, 渡邊康晴, 桑原千幸, 辻健司: “大学コンソーシアム京都単位互換制度における e-learning の取り組み”, コンピュータ利用教育学会, 2012 PC Conference 論文集, pp.325-328 (2012)
- (3) 公益財団法人大学コンソーシアム京都, <http://www.consortium.or.jp/> (2013)
- (4) e 京都ラーニング, <https://el.consortium.or.jp/> (2013)